

別表 E：
競技チア——ルーティーン／技基準表
スペシャルオリンピックスおよびユニファイド向け

イントロダクトリー	ビギナー (レベル 0)	ノービス (レベル 1)	インターメディエイト (レベル 2)
タンブリング全般			
タンブリングは禁止。	すべてのタンブリングは競技フロアから始め、競技フロアに着地しなければならない。 補足： タンブラーはリバウンドして、足からスタンツに移行してもよい。	すべてのタンブリングは競技フロアから始め、競技フロアに着地しなければならない。 補足： タンブラーはリバウンドして、足からスタンツに移行してもよい。 例外： スペシャルオリンピックスおよびユニファイドノービス部門では、リバウンドからうつ伏せ姿勢（腹部ツイスト 1/2 回転）でスタンツに移行するのは可。	すべてのタンブリングは競技フロアから始め、競技フロアに着地しなければならない。 補足： タンブラーはリバウンドして、足から移行してもよい。 例外： スペシャルオリンピックスおよびユニファイドノービス部門では、リバウンドからうつ伏せ姿勢（腹部ツイスト 1/2 回転）でスタンツに移行するのは可。
	スタンツや選手、小道具を飛び越える、くぐり抜けるタンブリングは禁止。 補足： 選手が他の選手を飛び越える（リバウンドする）のは可。	スタンツや選手、小道具を飛び越える、くぐり抜けるタンブリングは禁止。 補足： 選手が他の選手を飛び越える（リバウンドする）のは可。	スタンツや選手、小道具を飛び越える、くぐり抜けるタンブリングは禁止。 補足： 選手が他の選手を飛び越える（リバウンドする）のは可。
	小道具を持ったまま、または小道具に触れた状態でのタンブリングは禁止。	小道具を持ったまま、または小道具に触れた状態でのタンブリングは禁止。	小道具を持ったまま、または小道具に触れた状態でのタンブリングは禁止。
	ダイブロール（飛び込み前転）は禁止。	ダイブロール（飛び込み前転）は禁止。	ダイブロール（飛び込み前転）は可。 例外 1： スワンの姿勢や身体を反らせた姿勢でのダイブロールは禁止。 例外 2： ツイストを含むダイブロールは禁止。
	ジャンプは審査の観点からタンブリングとはみなさない。そのため、一連のタンブリングの流れの中にジャンプが含まれている場合、ジャンプがその流れの区切りとみなされる。	ジャンプは審査の観点からタンブリングとはみなさない。そのため、一連のタンブリングの流れの中にジャンプが含まれている場合、ジャンプがその流れの区切りとみなされる。	ジャンプは審査の観点からタンブリングとはみなさない。そのため、一連のタンブリングの流れの中にジャンプが含まれている場合、ジャンプがその流れの区切りとみなされる。

別表 E:

競技チア——ルーティーン／技基準表

スペシャルオリンピックスおよびユニファイド向け

イントロダクトリー	ビギナー (レベル 0)	ノビス (レベル 1)	インターメディエイト (レベル 2)
			<p>バックハンドスプリングからステップアウトの後、ツイストや回転する動きを加えるのは禁止。ツイストや回転する動きの前に実施する技は両足で着地していなければならない。</p> <p>例：バックハンドスプリングステップアウトからすぐにツイスト 1/2 回転に入るのは禁止。</p>

別表 E：
競技チア——ルーティーン／技基準表
スペシャルオリンピックスおよびユニファイド向け

イントロダクトリー	ビギナー (レベル 0)	ノビス (レベル 1)	インターメディエイト (レベル 2)
スタンディング／ランニングタンブリング			
スタンディング／ランニングタンブリングは禁止。	タンブリング中は常に身体が競技フロアに触れていること。 例外：ブロック側転、ラウンドオフは可。	タンブリング中は常に身体が競技フロアに触れていること。 例外：ブロック側転、ラウンドオフは可。	スタンディングタンブリング： フリップ、エアリアルは禁止。
	前方・後方ウォークオーバーは可。	前転・後転、前方・後方ウォークオーバー、倒立は可。	スタンディングタンブリング： 連続フロントハンドスプリングおよび連続バックハンドスプリングは禁止。 補足：後方ウォークオーバーからバックハンドスプリングに入るのは可。
	側転、ラウンドオフ、倒立は可。	側転、ラウンドオフ、倒立は可。	スタンディングタンブリング： ハンドスプリングからジャンプの連続技は禁止。 例：トウタッチからハンドスプリング、ハンドスプリングからトウタッチは禁止。
	ラウンドオフ直後にコンビネーションとなるタンブリングは禁止。ラウンドオフ後に続くタンブリングは、ラウンドオフまたはラウンドオフからのリバウンドで明確に停止した後に実施されなければならない。	ラウンドオフ直後にコンビネーションとなるタンブリングは禁止。ラウンドオフ後に続くタンブリングは、ラウンドオフまたはラウンドオフからのリバウンドで明確に停止した後に実施されなければならない。	スタンディング／ランニングタンブリング： 空中でのツイストは禁止。 例外：ラウンドオフは可。
	フロントハンドスプリングおよびバックハンドスプリングは禁止。	フロントハンドスプリングおよびバックハンドスプリングは禁止。	ランニングタンブリング： 連続フロントハンドスプリングおよび連続バックハンドスプリングは可。
			ランニングタンブリング： フリップ、エアリアルは禁止。

別表 E：

競技チア——ルーティーン／技基準表

スペシャルオリンピックスおよびユニファイド向け

イントロダクトリー	ビギナー (レベル 0)	ノービス (レベル 1)	インターメディエイト (レベル 2)
スタッツ			
<p>スタッツは禁止。選手は常に競技フロア上にいなければならない。</p> <p>補足：競技フロアにいる選手は、競技フロアにいる別の選手とスタッツとしてつながったり、力を入れて動かしたりしてはならない。</p>	<p>スポッター： 1. スポッターは、グラウンドレベル以上の高さの各トップに必要。</p> <p>例：サイスタンド、グラウンドスタッツ、ニースタッツ（例：ニーテーブルトップ）はグラウンドレベルスタッツの例である。</p> <p>補足：グラウンドレベル以上のすべてのスタッツのスポッターはトップの腰をつかむことが可。</p>	<p>スポッター： 1. スポッターは、プレップレベル以上の高さの各トップに必要。</p> <p>例：サスペンデッドスプリット、フラットボディポジション、プレップはプレップレベルスタッツの例である。腕を伸ばした高さでトップが直立でないスタッツ（例：Vシット、エクステンションフラットバックなど）はプレップレベルスタッツとみなす。</p> <p>補足 1：エクステンションVシットにおける真ん中のベースは、トップの頭と肩を補助するためのポジションにいる場合に限りに、スポッターと認められる。</p> <p>補足 2：メインのベースが腕を伸ばした状態で、膝を曲げること、膝をつくこと、スタッツ全体の高さを低くすること（フロアスタッツは除く）は、バックスポットの高さにかかわらず、エクステンションレベルとみなされるため禁止。</p> <p>例外：ショルダーシット／ストラドル、トリフトのほか、トップが競技フロアから始まり、競技フロアで終わるまで常に腰だけを支持されている場合に 1/2 ツイストまでのツイストランジションを含むスタッツは、スポッターは必須ではない。</p> <p>2. スポッターは、フロアスタッツの各トップに必要。</p> <p>補足：フロアスタッツのスポッターはトップの腰</p>	<p>スポッター： 1. スポッターは、プレップレベル以上の高さの各トップに必要。</p> <p>2. スポッターは、フロアスタッツの各トップに必要。</p> <p>補足：フロアスタッツのスポッターはトップの腰をつかむことが可。</p>

別表 E:

競技チア——ルーティーン／技基準表

スペシャルオリンピックスおよびユニファイド向け

<u>イントロダクトリー</u>	<u>ビギナー</u> (レベル 0)	<u>ノビス</u> (レベル 1)	<u>インターメディエイト</u> (レベル 2)
		をつかむことが可。	

別表 E：

競技チア——ルーティーン／技基準表

スペシャルオリンピックスおよびユニファイド向け

イントロダクトリー	ビギナー (レベル 0)	ノービス (レベル 1)	インターメディエイト (レベル 2)
	<p>スタンツレベル：</p> <p>1. 片足スタンツ、両足スタンツ、すべてのスタンツは、トップが競技フロアに立っている他の選手とつながっている場合（例：スポッターがトップの腰をつかんでいる、手や腕を組んでいるなど）に限り、ウエストレベルのみ可。スタンツは、ベースやスポッターとは異なる選手でなければならぬ。</p> <p>2. ウエストレベルより高い高さのスタンツは禁止。スタンツはウエストレベルより高い位置を通過してはならない。</p> <p>補足 1： トップをベースの腰の位置より上に持ち上げることは禁止。</p>	<p>スタンツレベル：</p> <p>1. 片足スタンツはウエストレベルでのみ可。</p> <p>例外 1： プレップレベルの片足スタンツは、トップが競技フロアに立っている他の選手とつながっている場合のみ可。スタンツは、ベースやスポッターとは異なる選手でなければならぬ。プレップレベルの片足スタンツは、開始前に手や腕同士でつなぎ合わなくてはならない。</p> <p>例外 2： スペシャルオリンピックスおよびユニファイドノービス部門では、トップの両足がベースの肩に乗るまでトップの両手がベースの両手につながっている場合、ウオークアップショルダースタンドは可。</p> <p>2. プレップレベルより高い高さのスタンツは禁止。スタンツはプレップレベルより高い位置を通過してはならない。補足： トップをベースの頭の位置より上に持ち上げることは禁止。</p>	<p>スタンツレベル：</p> <p>プレップレベルより高い高さの片足スタンツは禁止。片足スタンツはプレップレベルより高い位置を通過してはならない。</p> <p>補足 1： 片足スタンツのトップをベースの頭の上に持ち上げることは禁止。</p> <p>補足 2： メインのベースが腕を伸ばした状態で、膝を曲げること、フロアに膝をつくこと、スタンツ全体の高さを低くすること（フロアスタンツは除く）は、バックスポットの高さにかかわらず、エクステンションレベルとみなされるため禁止。</p>

別表 E:

競技チア——ルーティーン／技基準表

スペシャルオリンピックスおよびユニファイド向け

イントロダクトリー	ビギナー (レベル 0)	ノービス (レベル 1)	インターメディエイト (レベル 2)
	<p>ツイストスタuntsやトランジションは禁止。</p> <p>補足 1: スペシャルオリンピックスおよびユニファイドビギナー部門では、リバウンドからうつ伏せ姿勢（腹部ツイスト 1/2 回転）でスタuntsに移行するのは可。</p>	<p>トップが競技フロアから実施するツイストスタuntsやトランジションは合計 1/4 回転まで可。</p> <p>補足: 1つの技の中で、トップの回転に加えベースがさらに回転する場合、トップの回転数が積算で 1/4 回転を超える場合、違反となる。セーフティジャッジは、1つの技の中での回転総数をトップの腰の回転数で判断する。一度スタuntsが（例：プレップで）完成したら、選手はトップが静止し完全かつ明確に止まっていることを見せ、その後、追加の回転に入ること。</p> <p>例外 1: スペシャルオリンピックスおよびユニファイドノービス部門では、リバウンドからうつ伏せ姿勢（腹部ツイスト 1/2 回転）でスタuntsに移行するのは可。</p> <p>例外 2: スペシャルオリンピックスおよびユニファイドノービス部門では、1/2 ラップアラウンドスタuntsは可。</p> <p>例外 3: トップが競技フロアから始まり、競技フロアで終わるまで腰だけを支持されている場合は、1/2 ツイストまで可。スポッターの追加は必須ではない。</p>	<p>トップが競技フロアから実施するツイストスタuntsやトランジションは合計 1/2 回転まで可。</p> <p>補足 1: 1つの技の中で、トップの回転に加えベースがさらに回転する場合、トップの回転数が積算で 1/2 回転を超える場合、違反となる。セーフティジャッジは、1つの技の中での回転総数をトップの腰の回転数で判断する。一度スタuntsが（例：プレップで）完成したら、選手はトップが静止し完全かつ明確に止まっていることを見せ、その後、追加の回転に入ること。</p> <p>例外: シングルフルツイストのログロール／バレルロールは可。ただし、クレイドルポジションから開始しクレイドルポジションで終わり、ベースの補助がある場合に限られる。</p> <p>補足 2: ログロール／バレルロールにツイスト以外の技（例：キック・フル・ツイスト等）を加えてはならない。</p> <p>補足 3: ログロール／バレルロールを、他のトップが補助してもよい。</p>

別表 E:

競技チア——ルーティーン／技基準表

スペシャルオリンピックスおよびユニファイド向け

イントロダクトリー	ビギナー (レベル 0)	ノービス (レベル 1)	インターメディエイト (レベル 2)
	<p>トランジションの間、少なくともベース 1 人が別のトップに触れていなければならない。</p> <p>例外：スペシャルオリンピックスおよびユニファイドビギナー部門では、リープフロッグおよびリープフロッグのバリエーションは禁止。</p>	<p>トランジションの間、少なくともベース 1 人が別のトップに触れていなければならない。</p> <p>例外：スペシャルアビリティ（ユニファイドおよびトラディショナル）ノービス部門では、リープフロッグおよびリープフロッグのバリエーションは禁止。</p>	<p>トランジションの間、少なくともベース 1 人が別のトップに触れていなければならない。</p>
	<p>フリーフリッピングまたは補助付きフリッピングのスタuntsとトランジションは禁止。</p>	<p>フリーフリッピングまたは補助付きフリッピングのスタuntsとトランジションは禁止。</p>	<p>フリーフリッピングまたは補助付きフリッピングのスタuntsとトランジションは禁止。</p>
	<p>スタunts、ピラミッドまたは選手が他のスタuntsやピラミッドまたは選手の上を越えたり、下をくぐったりしてはならない。</p> <p>補足 1: このルールは、選手の胴体（選手の体の中央部分）が他の選手の胴体の上を越えたり、下をくぐったりする事に関してであり、選手の腕や足は対象外とする。</p> <p>補足 2: トップは、スタuntsまたはピラミッドが別の基であっても同じ基であっても、他のトップの胴体（選手の体の中央部分）の上を越えたり、下をくぐったりしてはならない。</p> <p>例：ロードインが他のスタuntsの下をくぐるのは禁止。例外：選手が他の選手の上を飛び越えるのは可。</p> <p>例外：選手が他の選手の上を飛び越えるのは可。</p>	<p>スタunts、ピラミッドまたは選手が他のスタuntsやピラミッドまたは選手の上を越えたり、下をくぐったりしてはならない。</p> <p>補足 1: このルールは、選手の胴体（選手の体の中央部分）が他の選手の胴体の上を越えたり、下をくぐったりする事に関してであり、選手の腕や足は対象外とする。</p> <p>補足 2: トップは、スタuntsまたはピラミッドが別の基であっても同じ基であっても、他のトップの胴体（選手の体の中央部分）の上を越えたり、下をくぐったりしてはならない。</p> <p>例：ショルダーシットがプレップの下をくぐるのは禁止。</p> <p>例外：選手が他の選手の上を飛び越えるのは可。</p>	<p>スタunts、ピラミッドまたは選手が他のスタuntsやピラミッドまたは選手の上を越えたり、下をくぐったりしてはならない。</p> <p>補足 1: このルールは、選手の胴体（選手の体の中央部分）が他の選手の胴体の上を越えたり、下をくぐったりする事に関してであり、選手の腕や足は対象外とする。</p> <p>補足 2: トップは、スタuntsまたはピラミッドが別の基であっても同じ基であっても、他のトップの胴体（選手の体の中央部分）の上を越えたり、下をくぐったりしてはならない。</p> <p>例：ショルダーシットがプレップの下をくぐるのは禁止。</p> <p>例外：選手が他の選手の上を飛び越えるのは可。</p>
	<p>シングルベースのスプリットキャッチは禁止。</p>	<p>シングルベースのスプリットキャッチは禁止。</p>	<p>シングルベースのスプリットキャッチは禁止。</p>

別表 E:

競技チア——ルーティーン／技基準表

スペシャルオリンピックスおよびユニファイド向け

<u>イントロダクトリー</u>	<u>ビギナー</u> (レベル 0)	<u>ノビス</u> (レベル 1)	<u>インターメディエイト</u> (レベル 2)
	トップが複数のシングルベーススタントは禁止。	トップが複数のシングルベーススタントは禁止。	トップが複数のシングルベーススタントは禁止。

別表 E：

競技チア——ルーティーン／技基準表

スペシャルオリンピックスおよびユニファイド向け

イントロダクトリー	ビギナー (レベル 0)	ノービス (レベル 1)	インターメディアイト (レベル 2)
スタンツ—リリースムーブ			
リリースムーブは禁止。	リリースムーブは禁止。 補足 1：ヘリコプターは禁止。 補足 2：ログロール／パレルロールは禁止。	スペシャルオリンピックスおよびユニファイドノービス部門で許可されている「ディスマウント」「トス」以外のリリースムーブは禁止。	スペシャルオリンピックスおよびユニファイドインターメディアイト部門で許可されている「ディスマウント」「トス」以外のリリースムーブは禁止。

別表 E :

競技チア——ルーティーン／技基準表

スペシャルオリンピックスおよびユニファイド向け

イントロダクトリー	ビギナー (レベル 0)	ノビス (レベル 1)	インターメディエイト (レベル 2)
スタンツ——インバージョン			
<p>インバージョンは禁止。</p>	<p>インバージョンは禁止。</p> <p>補足：すべてのインバート姿勢の選手（トップ）は、競技フロアに接触し続けなければならない（スペシャルオリンピックスおよびユニファイドビギナー部門「スタンディング／ランニングタンプリング」を参照）。</p> <p>例：競技フロアでの補助付きの倒立はスタンツとはみなさず、実施可能なインバージョンである。</p>	<p>インバージョンは禁止。</p> <p>補足：すべてのインバート姿勢の選手（トップ）は、競技フロアに接触し続けなければならない（スペシャルオリンピックスおよびユニファイドビギナー部門「スタンディング／ランニングタンプリング」を参照）。</p> <p>例：競技フロアでの補助付きの倒立はスタンツとはみなさず、実施可能なインバージョンである。</p>	<p>グラウンドレベルのインバージョンからそうでない姿勢へのトランジションは可。それ以外のインバージョンは禁止。</p> <p>補足：すべてのインバート姿勢の選手（トップ）は、直接インバート姿勢でないスタンツに上がる場合を除いて、競技フロアに接触し続けなければならない。</p> <p>例 1：可：競技フロアでの倒立からそうでない姿勢のスタンツ（例：ショルダーシット）へのトランジション。</p> <p>例 2：不可：クレイドルから倒立へのトランジションや、うつ伏せ姿勢から前転へのトランジションは禁止。</p>
	<p>ベースが体を反っていたり、インバート姿勢になっていたりする間は、トップの体重を支えてはならない。</p> <p>補足：競技フロアに立っている選手は、トップとはみなされない。</p>	<p>ベースが体を反っていたり、インバート姿勢になっていたりする間は、トップの体重を支えてはならない。</p> <p>補足：競技フロアに立っている選手は、トップとはみなされない。</p>	<p>ベースが体を反っていたり、インバート姿勢になっていたりする間は、トップの体重を支えてはならない。</p> <p>補足：競技フロアに立っている選手は、トップとはみなされない。</p>

別表 E :

競技チア——ルーティーン／技基準表

スペシャルオリンピックスおよびユニファイド向け

イントロダクトリー	ビギナー (レベル 0)	ノービス (レベル 1)	インターメディエイト (レベル 2)
ピラミッド			
ピラミッドは禁止。	ピラミッドは、スペシャルオリンピックスおよびユニファイドビギナー部門の「スタッツ」および「ディスマウント」のルールに従わなければならない。	ピラミッドは、スペシャルオリンピックスおよびユニファイドノービス部門の「スタッツ」および「ディスマウント」のルールに従わなければならない。かつ高さは2段まで可。	ピラミッドは、スペシャルオリンピックスおよびユニファイドノービス部門の「スタッツ」および「ディスマウント」のルールに従わなければならない。かつ高さは2段まで可。
	<p>トップはベースによって主に支持されなければならない。</p> <p>補足：ピラミッドトランジションの間、トップがベースからリリースされるときは、トップは必ずクレイドルか競技フロアへ着地することとし、プレップレベルより高い高さのブレイサーと支持し合っていないはならない。スペシャルオリンピックスおよびユニファイドノービス部門の「ディスマウント」ルールに従うこと。</p>	<p>トップはベースによって主に支持されなければならない。</p> <p>補足：ピラミッドトランジションの間、トップがベースからリリースされるときは、トップは必ずクレイドルか競技フロアへ着地することとし、プレップレベルより高い高さのブレイサーと支持し合っていないはならない。スペシャルオリンピックスおよびユニファイドノービス部門の「ディスマウント」ルールに従うこと。</p>	<p>トップはベースによって主に支持されなければならない。</p> <p>補足：ピラミッドトランジションの間、トップがベースからリリースされるときは、トップは必ずクレイドルか競技フロアへ着地することとし、プレップレベルより高い高さのブレイサーと支持し合っていないはならない。スペシャルオリンピックスおよびユニファイドノービス部門の「ディスマウント」ルールに従うこと。</p>

別表 E:

競技チア——ルーティーン／技基準表

スペシャルオリンピックスおよびユニファイド向け

イントロダクトリー	ビギナー (レベル 0)	ノービス (レベル 1)	インターメディエイト (レベル 2)
	<p>スタンツ、ピラミッドまたは選手が他のスタンツやピラミッドまたは選手の上を越えたり、下をくぐったりしてはならない。</p> <p>補足: トップは、スタンツまたはピラミッドが別の基であっても同じ基であっても、他のトップの胴体（選手の体の中央部分）の上を越えたり、下をくぐったりしてはならない。</p> <p>例：ロードインが他のスタンツの下をくぐるのは禁止。</p>	<p>両足スタンツ：</p> <p>1. 両足スタンツは、プレップレベル以下の高さのトップ（ブレイサー）1名が、以下の条件に従い、手と腕のみで支持し合わなければならない：</p> <p>ブレイサーとの支持は、両足エクステンションスタンツを始める前に行わなければならない。</p> <p>プレップレベルの高さのトップのブレイサーは、両足をベースの手で支えられていなければならない。</p> <p>例外：プレップレベルの高さのトップは、ショルダーシート、フラットバック、ストラドルリフト、ショルダースタンドの場合、両足をベースの手で支えられていなくてもよい。</p> <p>2. 両足エクステンションスタンツは、他のエクステンションスタンツと支持し合ってはならない。</p>	<p>エクステンションスタンツは、他のエクステンションスタンツと支持し合ってはならない。</p>
		<p>片足スタンツ：</p> <p>プレップレベルの片足スタンツは、プレップレベル以下の高さの少なくとも1名の選手（ブレイサー）が、以下の条件に従い、手と腕のみで支持し合わなければならない：</p> <p>ブレイサーとの支持は、プレップレベルの片足スタンツを始める前に行わなければならない。</p> <p>プレップレベルの高さのトップのブレイサーは、両足をベースの手で支えられていなければならない。</p>	<p>スタンツ、ピラミッドまたは選手が、他のスタンツやピラミッドまたは選手の上を越えたり、下をくぐったりしてはならない。</p> <p>補足: トップは、スタンツまたはピラミッドが別の基であっても同じ基であっても、他のトップの胴体（選手の体の中央部分）の上を越えたり、下をくぐったりしてはならない。</p> <p>例：ショルダーシートがプレップの下をくぐるのは禁止。</p>

別表 E:

競技チア——ルーティーン／技基準表

スペシャルオリンピックスおよびユニファイド向け

<u>イントロダクトリー</u>	<u>ビギナー</u> (レベル 0)	<u>ノービス</u> (レベル 1)	<u>インターメディエイト</u> (レベル 2)
		<p>例外：プレップレベルの高さのブレイサーは、ショルダーシット、フラットバック、ストラドルリフト、ショルダースタンドの場合、両足をベースの手で支えられていなくてもよい。</p> <p>片足のエクステンションスタントは禁止。</p>	

別表 E：

競技チア——ルーティーン／技基準表

スペシャルオリンピックスおよびユニファイド向け

イントロダクトリー	ビギナー (レベル 0)	ノービス (レベル 1)	インターメディエイト (レベル 2)
		<p>スタンツ、ピラミッドまたは選手が、他のスタンツやピラミッドまたは選手の上を越えたり、下をくぐったりしてはならない。</p> <p>補足： トップは、スタンツまたはピラミッドが別の基であっても同じ基であっても、他のトップの胴体（選手の体の中央部分）の上を越えたり、下をくぐったりしてはならない。</p> <p>例： ショルダーシットがプレップの下をくぐるのは禁止。</p>	<p>片足のエクステンションスタンツ：</p> <p>片足のエクステンションスタンツは、プレップレベル以下の高さの少なくとも 1 名のトップ（プレイヤー）が、手と腕のみで支持し合わなければならない。トップは手と腕をプレイヤーの手と腕と支持し合い、それを維持しなければならない。</p> <p>プレイヤーとの支持は、片足のエクステンションスタンツを始める前に行わなければならない。</p> <p>プレップレベルのトップは両足をベースの手で支えられていなければならない。</p> <p>例外： プレップレベルの高さのトップは、ショルダーシット、フラットバック、ストラドルリフト、ショルダースタンドの場合、両足をベースの手で支えられていなくてもよい。</p>

別表 E :

競技チア——ルーティーン／技基準表

スペシャルオリンピックスおよびユニファイド向け

イントロダクトリー	ビギナー (レベル 0)	ノービス (レベル 1)	インターメディエイト (レベル 2)
ディスマウント			
<p>ディスマウントは禁止。</p>	<p>注意：トップがリリースされてクレイドルになる動き、またはリリースかつ補助されながら競技フロアに着地する動きのみを「ディスマウント」とする。</p> <p>ストレートポップダウンのみ可。</p> <p>補足 1：競技フロアへのディスマウントは、元のベースやスポッターが補助しなければならない。</p> <p>補足 2：スペシャルオリンピックスおよびユニファイドビギナー部門では、ウエストレベル以下のスタントから他の技を追加しないストレートドロップまたは（安全な範囲の）ポップオフの競技フロアへの着地には補助が必要である。</p> <p>補足 3：選手は補助なしでウエストレベルの高さから競技フロアへ着地してはならない。</p>	<p>注意：トップがリリースされてクレイドルになる動き、またはリリースかつ補助されながら競技フロアに着地する動きのみを「ディスマウント」とする。</p> <p>シングルベーススタントからのクレイドルキャッチには、クレイドル中に頭と肩の部分を守るために、腰から上の部分を少なくとも片手／片腕で支持するスポッターをつけなければならない。</p>	<p>注意：トップがリリースされてクレイドルになる動き、またはリリースかつ補助されながら競技フロアに着地する動きのみを「ディスマウント」とする。</p> <p>シングルベーススタントからのクレイドルキャッチには、クレイドル中に頭と肩の部分を守るために、腰から上の部分を少なくとも片手／片腕で支持するスポッターをつけなければならない。</p>
	<p>ウエストレベルのクレイドルは禁止。</p>	<p>複数ベーススタントからのクレイドルキャッチには、2名のキャッチャーと、別にクレイドル中に頭と肩の部分を守るために、トップの腰から上の部分を少なくとも片手／片腕で支持するスポッターをつけなければならない。</p> <p>補足 1：スペシャルアビリティ部門では、スポンジ、ロードイン、スクイッシュからのクレイドルはトスとみなされるため禁止。</p> <p>補足 2：ウエストレベルのクレイドルはすべて禁止。</p>	<p>複数ベーススタントからのクレイドルキャッチには、2名のキャッチャーと、別にクレイドル中に頭と肩の部分を守るために、トップの腰から上の部分を少なくとも片手／片腕で支持するスポッターをつけなければならない。</p>

別表 E:

競技チア——ルーティーン／技基準表

スペシャルオリンピックスおよびユニファイド向け

イントロダクトリー	ビギナー (レベル 0)	ノービス (レベル 1)	インターメディエイト (レベル 2)
		<p>ディスマウントは、元のベースに戻らなければならない。</p> <p>例外 1：競技フロアへのディスマウントは元のベースやスポッターが補助しなければならない。</p> <p>例外 2：ウエストレベル以下のスタントから他の技を追加しないストレートドロップまたは（安全な範囲の）ポップオフのみが、補助なしで競技フロアに着地できるディスマウントである。</p> <p>補足：選手は補助なしでウエストレベルより高い高さから競技フロアに着地してはならない。</p>	<p>ディスマウントは、元のベースに戻らなければならない。</p> <p>例外 1：競技フロアへのディスマウントは元のベースやスポッターが補助しなければならない。</p> <p>例外 2：ウエストレベル以下のスタントから他の技を追加しないストレートドロップまたは（安全な範囲の）ポップオフのみが、補助なしで競技フロアに着地できるディスマウントである。</p> <p>補足：選手は補助なしでウエストレベルより高い高さから競技フロアに着地してはならない。</p>
		<p>ストレートポップダウン、ベーシックストレートクレイドルのみ可。</p>	<p>ストレートポップダウン、ベーシックストレートクレイドルおよび 1/4 回転のみ可。</p>
	<p>ツイストディスマウントは禁止（1/4 回転も禁止）。</p>	<p>ツイストディスマウントは禁止（1/4 回転も禁止）。</p>	<p>ツイストディスマウントは禁止（1/4 回転も禁止）その他のポジション／追加の技はすべて禁止。</p> <p>例：トウタッチ、パイク、タックなどのポジション／追加の技は、ディスマウントでは禁止。</p>
	<p>スタント、ピラミッド、小道具または選手が、ディスマウントを越えたりくぐったりすること、またディスマウントがスタント、ピラミッド、小道具または選手を越えたり、くぐったり、通り抜けたりはしてはならない。</p>	<p>スタント、ピラミッド、小道具または選手が、ディスマウントを越えたりくぐったりすること、またディスマウントがスタント、ピラミッド、小道具または選手を越えたり、くぐったり、通り抜けたりはしてはならない。</p>	<p>スタント、ピラミッド、小道具または選手が、ディスマウントを越えたりくぐったりすること、またディスマウントがスタント、ピラミッド、小道具または選手を越えたり、くぐったり、通り抜けたりはしてはならない。</p>
	<p>ピラミッドで、ウエストレベルより高い高さの技からのあらゆるディスマウントは禁止。</p> <p>補足：選手は補助なしでウエストレベルより高い高さから競技フロアに着地してはならない。</p>	<p>ピラミッドで、プレップレベルより高い高さの技からのあらゆるディスマウントは禁止。</p>	<p>ピラミッドの片足エクステンションスタントからのクレイドルキャッチは可。</p>

別表 E:

競技チア——ルーティーン／技基準表

スペシャルオリンピックスおよびユニファイド向け

イントロダクトリー	ビギナー (レベル 0)	ノビス (レベル 1)	インターメディアイト (レベル 2)
	フリーフリッピングディスマウント、補助付きフリッピングディスマウントは禁止。	フリーフリッピングディスマウント、補助付きフリッピングディスマウントは禁止。	フリーフリッピングディスマウント、補助付きフリッピングディスマウントは禁止。
	ディスマウントは、故意に別の場所に移動してはならない。	ディスマウントは、故意に別の場所に移動してはならない。	ディスマウントは、故意に別の場所に移動してはならない。
	ディスマウントにおいて、トップはベースにリリースされている間、お互いに接触してはならない。	ディスマウントにおいて、トップはベースにリリースされている間、お互いに接触してはならない。	ディスマウントにおいて、トップはベースにリリースされている間、お互いに接触してはならない。
	テンションドロップ／ロールは禁止。	テンションドロップ／ロールは禁止。	テンションドロップ／ロールは禁止。

別表 E：

競技チア—ルーティーン／技基準表

スペシャルオリンピックスおよびユニファイド向け

イントロダクトリー	ビギナー (レベル 0)	ノビス (レベル 1)	インターメディエイト (レベル 2)
トス			
トスは禁止。	トスは禁止。 補足 1： これには「スポンジ（ロードインやスクイッシュとも呼ばれる）」トスも含まれる。 補足 2： ウエストレベルのクレイドルはすべて禁止。	トスは禁止。 補足 1： これには「スポンジ（ロードインやスクイッシュとも呼ばれる）」トスも含まれる。 補足 2： ウエストレベルのクレイドルはすべて禁止。	トスは禁止。 補足 1： これには「スポンジ（ロードインやスクイッシュとも呼ばれる）」トスも含まれる。 補足 2： ウエストレベルのクレイドルはすべて禁止。